

ANALISIS MAKNA KANYOUKU YANG MENGGUNAKAN KATA 出る (DERU)

Angelique Gloriana
1305660

ABSTRAK

Kanyouku merupakan kumpulan beberapa kata yang membentuk sebuah frasa yang memiliki arti berbeda dengan arti sebenarnya dari kata per kata. Dengan jumlah *kanyouku* yang begitu banyak, pembelajar perlu mengetahui budaya yang ada untuk mempermudah memahami serta mengingat *kanyouku*. Kemudian, pembelajar harus mengetahui hubungan antar makna pada *kanyouku* tersebut. Pada penelitian ini, penulis akan menganalisis *kanyouku* yang menggunakan kata 出る (*deru*). Metode yang digunakan pada penelitian ini adalah metode analisis deskriptif, yaitu mencari beberapa kemungkinan untuk memecahkan masalah mengenai hubungan antar makna *kanyouku*. Hasil dari penelitian ini adalah terdapat 26 *kanyouku* yang menggunakan kata 出る (*deru*). Berdasarkan klasifikasi menurut *Hyougen o Yutaka ni Ikiiki Kanyouku*, 12 *kanyouku* termasuk pada *joutai*, 8 *kanyouku* termasuk pada *kanjou*, 2 *kanyouku* termasuk pada *koudou*, *koui*, 2 *kanyouku* termasuk pada *hito ya mono o arawasu*, serta 2 *kanyouku* termasuk pada *taido*. Berdasarkan hubungan antar makna yang terdapat pada *kanyouku*, 16 *kanyouku* mengalami perluasan makna secara metafora, 8 *kanyouku* mengalami perluasan makna secara metonimi, serta 2 *kanyouku* memiliki perluasan makna secara *sinekdoke*.

Kata kunci: kata kerja, idiom, *deru*, hubungan makna, klasifikasi

ANALYSIS THE MEANING OF JAPANESE IDIOMS WHICH USE THE
WORD 出る (DERU)

Angelique Gloriana
1305660

ABSTRACT

Kanyouku or idiom are a collection of several words that make a phrase have a different meaning to its true meaning when we interpret it word for word. There are many *kanyouku* in Japanese and because of that, learners need to know the culture to make it easier to understand and remembering *kanyouku*. Therefore the learners must know the relation between the meanings in that *kanyouku*. In this research, the writer will do an analysis in the *kanyouku* which use the word *deru*. The method used in this research is “descriptive analysis. That is searching for some possibility to solve the problem regarding the relation between the meanings of *kanyouku*. The result from this study is that there are 26 *kanyouku* which use the word *deru*. According to classification from *Hyougen o Yutaka ni Ikiiki Kanyouku*, 12 *kanyouku* are belong to *joutai*, 8 *kanyouku* belong to *kanjou*, 2 *kanyouku* is belong to *koudou koui*, 2 *kanyouku* belong to *hito ya mono o arawasu*, and the remaining 2 is belong to *taido*. Based on the relation between meaning in the *kanyouku*, 16 *kanyouku* have the extended meaning of metafore, 8 on metonymy and 2 from synecdoche.

Keyword: verb, idiom, *deru*, meaning relation, classification

「出る」を使用している慣用句の意味分析

エンジェリック グロリアナ
1305660

要旨

慣用句というのはいくつかの単語から結び、全体として新たな意味も表し、それぞれの単語の語彙の意味も違う。日本文化を理解したら、慣用句の勉強はもっと分かりやすくなる。それに、日本語学習者も語彙的な意味と慣用句の意味を理解しなくてはならないということである。本研究では「出る」を使用している慣用句を研究した。研究の方法は記述的方法である。deskriptif 法というのはいくつかの方法を探し、慣用句の関係における問題を解決する。本研究の結果は「出る」を使用している慣用句は二十六ある。表現を豊かに生き生き慣用句における「出る」を使用している慣用句の分類は状態に十二あり、感情に八つあり、行動行為に二つあり、人や物を表すものに二つあるということがわかった。慣用句の意味の関係によって、十六の慣用句は隠喩的に拡大があり、八つの慣用句は換喩的に拡大があり、二つの慣用句は提喩的に拡大があるということがわかった。

キーワード：動詞、慣用句、出る、意味の関係、分類

A. はじめに

益岡と田窪（1989:158）によると、いくつかの語からなる句で、語の結びつきが固定し、句全体の表す意味が特殊化したものを、「慣用句」という。慣用句には語彙的意味も慣用句意味も違い、数も多い。でも、倉持（1987）によると、慣用句を適切に使うことによって、表現が豊かになり、しかもいきいきとしてくる。したがって、日本の生活でもよく使うので、日本語学習者にとって慣用句の勉強は必要である。日本文化を理解すると、慣用句の勉強はもっと分かりやすくなる。そのために本研究では日本の本や小説やアニメやドラマの中で「出る」を使用している慣用句の意味分析を行った。

B. 研究の目的

本研究の目的は四つある。それは次の通りである。

- a. 「出る」を使用している慣用句の語彙的意味を知るためである。
- b. 「出る」を使用している慣用句の慣用句意味を知るためである。
- c. 「出る」を使用している慣用句の語彙的意味と慣用句意味における結びつきを知るためである。
- d. 『表現を豊かに生き生き慣用句』における「出る」を使用している慣用句の分類を知るためである。

C. 先行研究

慣用句の先行は多かった。例えば次の通りである。

- a. 「耳」を使用する慣用句の意味分析（Purnama, 2013）

本研究の結果は「耳」を使用する慣用句は三十一ある。『例解慣用句辞典』における「耳」を使用する慣用句の分類は感情に関するものが七つあり、行動に関するものが十七あり、性格に関するものが五つあり、程度に関するものが一つあり、文化に関するものが一つあるということがわかった。慣用句の意味の結びつきによって、十四の慣用句は隠喩的に拡大があり、十の慣用句は換

喩的に拡大があり、三つの慣用句は提喩的に拡大があるということが分かった。

b. 「でる」の多義語分析 (Sofyan, 2014)

本研究の結果では「でる」の意味は十三ある。それは「出る」、「進む」、「出発」、「行く」、「残す」、「表示される」、「登る」、「到着する」、「産出される」、「由来する」、「ある・いる」、「生える」、「慣用句」である。隠喩的に拡大が一つあり、換喩的に拡大が四つあり、提喩的に拡大が八つあるということが分かった。

c. 「立つ」を使用する慣用句の意味分析 (Murdiyana, 2011)

本研究の結果は「立つ」を使用する慣用句は三十五ある。慣用句の意味の結びつきによって、七つの慣用句は隠喩的に拡大があり、十三の慣用句は換喩的に拡大があり、六つの慣用句は提喩的に拡大があるということが分かった。

D. 研究の方法

本研究の目的に基づき、研究の方法は deskriptif 法である。研究の手順は次の通りである。

- a. 「出る」を使用している慣用句を収集した。
- b. 「出る」を使用している慣用句の語彙的意味と慣用句意味を分析した。
- c. 「出る」を使用している慣用句の語彙的意味と慣用句意味における結びつきを分析した。
- d. 『表現を豊かに生き生き慣用句』における「出る」を使用している慣用句の分類を分析した。
- e. 最後に研究の報告を書いた。

E. 分析の結果

本研究の結論は次の通りである。『実用ことわざ慣用句辞典』（1987）、『用例でわかる慣用句辞典』（2007）、『小学生の漫画慣用句辞典』（2005）から、「出る」を使用している慣用句を二十六取り上げた。その結果は次の通りである。

1. 「出る」を使用している慣用句の語彙的意味と慣用句意味は次の通りである。

No.	慣用句	語彙的な意味	慣用句の意味
1.	足が出る	Keluar kaki	支出が、決めていた額より多くなる。また、赤字になる。「学研辞典編集部、2007:7」
2.	いい目が出る	Keluar mata dadu yang baik	運が向いてきて、自分の思い通りの事態になる。「倉持、1987:432」
3.	裏目に出る	Keluar di sisi sebaliknya	よい結果が出ることを見込んで行ったことが、逆に良くない結果を招く。「学研辞典編集部、2007:63」
4.	鬼が出るか蛇が出るか	Apakah setan atau ular yang keluar	次にはどんなものが出てくるか分からないことや、先のことが分からないことのたとえ。「学研辞典編集部、2007:77」
5.	顔から火が出る	Keluar api dari wajah	恥ずかしくて、顔が真っ赤になるようす。「学研辞典編集部、2007:86」

6.	顔に出る	Keluar di wajah	口で言わなくても、思っていることなどが表情に表れる。「学研辞典編集、2007:87」
7.	買って出る	Keluar beli	自ら進んで引き受ける。「学研辞典編集、2007:99」
8.	ぐうの音も出ない	Suara huu pun tidak keluar	相手からされても、相手が完全に正しいのでまったく反論できない。ひと言も言い返すことができない。「学研辞典編集、2007:135」
9.	地金が出る	Keluar mineral	これまでは隠されていた、悪い本性が表に現れる。「学研辞典編集、2007:177」
10.	下手に出る	Keluar di bawah tangan	相手に対して、へりくだった態度をとる。「学研辞典編集、2007:180」
11.	初日が出る	Keluar hari pertama	相撲で、負け続けていた力士が初めて勝つ。「学研辞典編集、2007:193」
12.	精が出る	Keluar roh	よく励む。また、よく働く。「学研辞典編集、2007:206」
13.	叩けば埃が出る	Kalau dipukul keluar debu	細かく調べていけば、少しはやましいことが見つ

			かる。「学研辞典編集、2007:221」
14.	手が出ない	Tangan tidak keluar	そのものが、自分の能力や経済力をこえていて、どうすることもできない。「金田一、2005:183」
15.	手も足も出ない	Baik tangan maupun kaki tidak keluar	相手が、自分の能力・実力をはるかにこえていて、対応する手段が見つからない。「金田一、2005:93」
16.	出る幕ではない	Bukan tirai keluar	表に出たり、口出しをしたりすべきときではない。「学研辞典編集、2007:247」
17.	喉から手が出る	Keluar tangan dari tenggorokan	何かが欲しくてたまらない様子。「倉持、1987:599」
18.	火の出るよう	Seperti keluar api	怒りや恥ずかしさで、顔を真っ赤にする様子。「学研辞典編集、2007:325」
19.	瓢箪から駒が出る	Keluar bidak catur dari labu	思ってもみなかったところから、意外な物事が現れるたとえ。「学研辞典編集、2007:328」
20.	反吐が出る	Keluar muntah	食べたものを吐きたくなるほどに、不愉快である。「学研辞典編集、

			2007:339」
21.	身から出た錆	Noda yang keluar dari tubuh	苦しんでいるのは、もともとは自分がした悪い行いが原因であるということ。「学研辞典編集、2007:356」
22.	右に出る者がいない	Tidak ada orang keluar di kanan	その人が最も優れている。「学研辞典編集、2007:357」
23.	芽が出る	Keluar kecambah	成功するきっかけをつかむ。幸運がめぐってくる。「金田一、2005:135」
24.	目から火が出る	Keluar api dari mata	頭や顔面を何かに強く打ち付けた時に受ける感じを言う言葉。「倉持、1987:655」
25.	涎が出る	Keluar air liur	欲しいものを目の前にして、それが欲しくてたまらなくなる。「学研辞典編集、2007:411」
26.	世に出る	Keluar di dunia	世間に知られる。出世する。「学研辞典編集、2007:412」

2. 『表現を豊かに生き生き慣用句』における「出る」を使用している慣用句の分類は次の通りである。

No	慣用句	感情	行動行為	態度	状態	人や物を表す
----	-----	----	------	----	----	--------

1.	足が出る				✓	
2.	いい目が出る				✓	
3.	裏目に出る				✓	
4.	鬼が出るか蛇が 出るか	✓				
5.	顔から火が出る	✓				
6.	顔に出る				✓	
7.	買って出る		✓			
8.	ぐうの音も出 ない				✓	
9.	地金が出る				✓	
10.	下手に出る			✓		
11.	初日が出る				✓	
12.	精が出る			✓		
13.	叩けば埃が出る				✓	
14.	手が出ない					✓
15.	手も足も出ない					✓
16.	出る幕ではない		✓			
17.	喉から手が出る	✓				
18.	火の出るよう	✓				
19.	瓢箪から駒が 出る	✓				
20.	反吐が出る	✓				
21.	身から出た錆	✓				
22.	右に出る者が ない				✓	
23.	芽が出る				✓	

24.	目から火が出る				✓	
25.	涎が出る	✓				
26.	世に出る				✓	

3. 「出る」を使用している慣用句の語彙的意味と慣用句意味における関係は次の通りである。

No.	慣用句	隠喩	換喩	提喩
1.	足が出る	✓		
2.	いい目が出る	✓		
3.	裏目に出る	✓		
4.	鬼が出るか蛇が出るか	✓		
5.	顔から火が出る	✓		
6.	顔に出る		✓	
7.	買って出る			✓
8.	ぐうの音も出ない	✓		
9.	地金が出る	✓		
10.	下手に出る	✓		
11.	初日が出る	✓		
12.	精が出る		✓	
13.	叩けば埃が出る	✓		
14.	手が出ない		✓	
15.	手も足も出ない		✓	
16.	出る幕ではない	✓		
17.	喉から手が出る		✓	
18.	火の出るよう	✓		
19.	瓢箪から駒が出る	✓		

20.	反吐が出る		✓	
21.	身から出た錆	✓		
22.	右に出る者がいない			✓
23.	芽が出る	✓		
24.	目から火が出る		✓	
25.	涎が出る		✓	
26.	世に出る	✓		

F. 考察

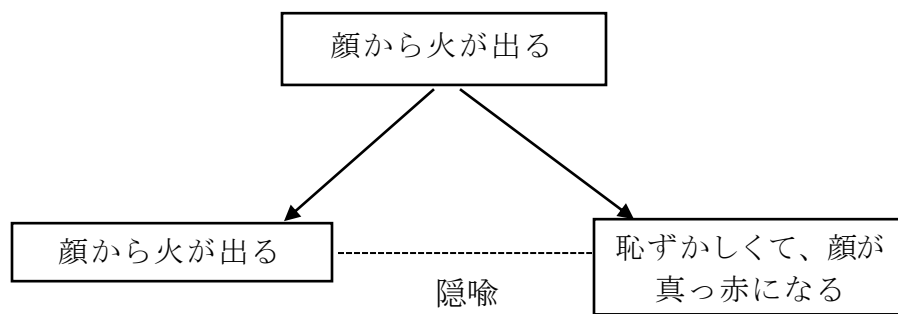
本研究には語彙的意味と慣用句的意味の結びつきを知るために三つの比喩を使った。それは次の通りである。

a. 隠喩

本研究では隠喩的に拡大する慣用句は十六ある。すなわち、「足が出る」、「いい目が出る」「裏目に出る」、「鬼が出るか蛇が出るか」、「顔から火が出る」、「ぐうの音も出ない」、「地金が出る」、「下手に出る」、「初日が出る」、「叩けば埃が出る」、「出る幕ではない」、「火の出るよう」、「瓢箪から駒が出る」、「身から出た錆」、「芽が出る」、「世に出る」である。これらの慣用句の語彙的意味と慣用句的意味の結びつきは似ている。例は次の通りである。

「顔から火が出る」

この慣用句は、「顔から火が出る」という語彙的な意味を持っている。慣用句的意味は恥ずかしくて、顔が真っ赤になる様子という意味を持っている。この二つ意味の結びつきは「人間は恥ずかしい時、顔が暑くて真っ赤になる。まるで、顔から火が出るよう」という結びつきである。「恥ずかしい」と「顔から火が出る」は似ているので、隠喩的に拡大することが分かった。意味関係のスキームは次の通りである。



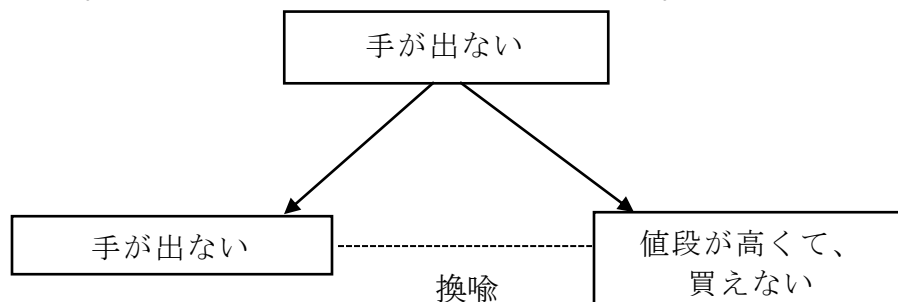
「顔から火が出る」の意味関係のスキーム

b. 換喩

本研究には隠喩的に拡大する慣用句は八つある。すなわち、「顔に出る」、「精が出る」、「手が出ない」、「手も足も出ない」、「喉から手が出る」、「反吐が出る」、「目から火が出る」、「涎が出る」である。この慣用句の語彙的意味と慣用句的意味の結びつきは原因と結果である。例は次の通りである。

「手が出ない」

この慣用句では、「手が出ない」という語彙的な意味を持っている。慣用句的な意味は自分の能力を超えていて、どんな手段も施せない。また、高額すぎて買えないという意味を持っている。この二つ意味の結びつきは「例えば何かを買う時にポケットから手が出て、欲しいものを取って、払う。でも、もし値段がかなり高かったら、手がそのままポケットから出ない。買えないから」という結びつきである。「値段が高い」と「買えないので、手が出ない」は原因と結果の関係なので、換喩的に拡大することが分かった。意味関係のスキームは次の通りである。



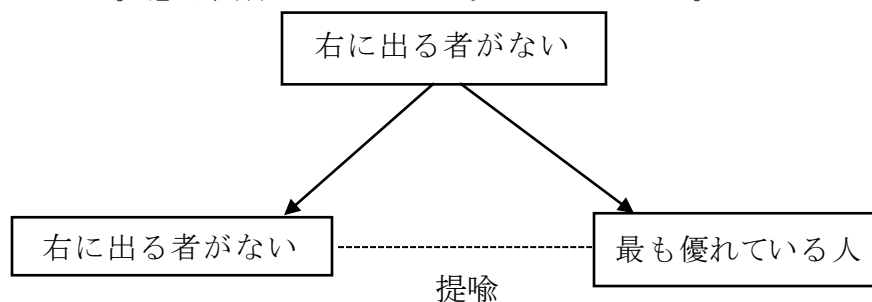
「手が出ない」の意味関係のスキーム

c. 提喩

靱山・深田 (Lee, 2016:3) によると、提喩というのはより一般的な意味をもつ形式を用いて、より特殊な意味を表す、あるいは逆により特殊な意味をもつ形式を用いて、より一般的な意味を表す喩である。本研究には提喩的に拡大する慣用句は二つある。すなわち、「買って出る」と「右に出る人がない」である。例は次の通りである。

「右に出る人がない」

この慣用句では、「右に出る人がない」という語彙的な意味を持っている。慣用句的な意味はその人が最も優れているという意味を持っている。この二つ意味の結びつきは「右側は最も信頼する人や最も優れている人のところという特殊な意味をもっている。良くないところではない。最も優れている人が右側にいるので、その人より優れていない人は右に出ることができない」という結びつきである。「右側にいる人」と「最も優れている人」は一般的な意味と特殊な意味の関係なので、提喩的に拡大することが分かった。意味関係のスキームは次の通りである。



「右に出る者がない」の意味関係のスキーム

G. 終わりに

本研究では「出る」を使用している二十六慣用句に関して分析した。それに本研究によると「出る」を使用している慣用句の語彙的意味は 'keluarnya suatu hal'。慣用句的意味は大分状態を表す。『表現を豊かに生き生き慣用句』における「出る」を使用している慣用句の分類

は状態に関するものが十二あり、感情に関するものが八つあり、行動行為に関するものが二つあり、人や物を表すものに関するものが二つあるということがわかった。慣用句の意味の関係によって、十六の慣用句は隠喩的に拡大があり、八つの慣用句は換喩的に拡大があり、二つの慣用句は提喩的に拡大があるということが分かった。

H. 参考文献

- 学研辞典編集 (2007) 『用例でわかる慣用句辞典』、学研
- 金田一春彦 (2005) 『小学生のまんが慣用句辞典』、学研
- 倉持保男 (1987) 『実用ことわざ慣用句辞典』、三省堂編修所
- 田仲正江、間柄直子 (1995) 『表現を豊かに生き生き慣用句』、専門教育出版
- 益岡隆志、田窪行則 (1989) 『基礎日本語文法』、くろしお出版
- Purnama, Widianti. (2013). *Analisis Makna Kanyouku dalam Bahasa Jepang yang Menggunakan Anggota Tubuh Mimi*. Skripsi FPBS UPI. Tidak diterbitkan.
- Syofyan, Edi. (2014). *Analisis Makna Verba Deru Sebagai Polisemi dalam Kalimat Bahasa Jepang*. Skripsi FPBS UPI. Tidak diterbitkan.
- Murdiyana, Senny. (2011). *Analisis Makna Kanyouku yang Terbentuk dari Kata 'Tatsu'*. Skripsi FPBS UPI. Tidak diterbitkan.